



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.goodream.co.jp/hoyukai/>

第45号

発行:2010年1月15日
発行責任者:
特定医療法人社団 鵬友会
事務局長 池島 守

池島 守常務理事への新春インタビュー 2010

～この荒波を職員全員で乗り切ろう～

2010年の幕明けに当たり、本紙では当法人の池島守常務理事にインタビューを行い、今年の方針について語って頂きました。

Q1. 昨年を振り返って、鵬友会にとってどんな年でしたか？

今、日本経済は100年に1度の不況といわれるほど深刻なものになっております。そんな中、我が鵬友会は上質な医療・福祉サービスの提供や地域医療への貢献など、医療法人としての責務を果たすことができたのではないかと思います。それに伴って、経営のほうも一年を通して上向きでよい結果を残せました。特に、湘南泉病院のDPCへの取り組み、老人保健施設阿久和鳳荘の介護報酬の改定が大きな要因だと思います。

Q2. 激変する医療情勢の中での鵬友会の22年度の基本方針や取り組みは？

なんといっても4月の診療報酬改定が大きなヤマ場になるでしょう。政権交代したことがどのように影響してくるか。民主党が掲げる重点項目に、救急・産科・小児・外科などの医療の再建や勤務医の負担軽減（医療従事者増員に努める医療機関への支援）があります。全体で0.19%のプラス改定と報道されていますが、病院が受ける実務的な問題を考慮すると、あまり楽観視できないというのが本音です。



(インタビュー:本部 福岡)

限られた財源の中で、医療の現場のことを本当に考え、真に有効な政策を打ち出して欲しいと願っております。そしてこんな時代だからこそ、地域の皆様に変わらぬ医療・福祉サービスを提供し続けることが大切です。そのために、さまざまな方面から情報を収集して将来的な法人としてのビジョンを明確にし、各施設がその方向へ迷わず進んでいけるように常に道筋を照らしていくことが私の責務だと考えております。

Q3. 各施設に期待することは何ですか？

湘南泉病院（急性期一般病院）はDPCを取得すること。これは診療報酬体系自体がその導入の流れになっていることもありますが、DPCを取得すれば、さまざまな経費削減、特に後発医薬品の導入による薬価比のダウンが期待できます。次に、新中川病院（療養型病院）はより療養型を重視していきたいと考えています。これについては、病院長が以前から常に掲げていたこともあり、職員にもその方針が根づいてきていると感じています。横浜ほうゆう病院（認知症専門病院）は、認知症専門病院として医療水準を高め、ハード面でも外来診察室を改修・拡充し、より多くの患者の方に来て頂けるようにしていきたいと思います。最後に阿久和鳳荘（介護老人保健施設）は、昨年度からボイラーやベッドの入替など、施設の老朽化に伴う故障が目立ってきました。このような問題は計画的に整備していき、入居者にとって快適な療養環境を提供していきたいと考えております。

また、医療に直結する在宅部門も地域連携を重視するうえで、さらに力を入れていきたいと思っております。

Q4. 職員に向けてメッセージをお願いします。

鵬友会には優秀な人材が揃っていると自負しております。この医療界を取り巻く荒波を乗り切るべく、一人ひとりがその能力をいかんなく発揮してくれることを期待しております。



クリスマス会を行いました

～鵬友会院内保育室「ほうゆう園」より～

昨年12月22日にほうゆう園2階幼児室にて、クリスマス会を行いました。初めに、保育士が扮したサンタとトナカイが登場すると、子どもたちは真剣に、そしてどこか不思議そうな表情で見つめていました。しかし、サンタからお菓子の入ったブーツのプレゼントを渡されると表情は一変、“やったー”、“サンタさんありがとう”といった声上がり、会は一気にヒートアップ！その後、スポンジケーキに生クリーム、いちごやチョコを使って子どもたちが自由にデコレーションをして楽しんだ後、その自作のケーキをほおぼりながら、幸せそうな笑顔を見せてくれました。



ほうゆう園

<http://www.goodream.co.jp/hoyukids/>



看護師研修報告 ～新中川病院～



現任教育の一環として、同法人理事永澤看護統括部長に講師を依頼し、昨年11月26日に看護師研修会を実施した。「最近の医療・看護を考える」と題し、看護者の倫理綱領を基に看護者は看護職の免許によって看護を実践する権限を与えられたものであり、その社会的責務を果たす役割があると強調された。綱領条文15項目の内容について参加者が自らの言葉にして一人ひとりが発言した。今回の研修目的は、見過ごしてしまう臨床現場での様々な問題を一步立ち止まり、自分なりに自由に発案し発想が出来るように、①ワークライフバランス②専門看護師・認定看護師③新型インフルエンザの3グループに分け、自由に意見交換ができる参加型とした。

結果、全員で参加した実感がもてた。自由に意見交換ができ楽しかった。一つのテーマでじっくり話し合うことができ、とても良かった。等の意見が寄せられ、倫理的感性と倫理行動をもった、たくましい当院の看護師を実感することができた。講師の永澤看護統括部長に感謝申し上げます。

看護部長 三浦 満喜子

